

2024年度 町田市市民参加型事業評価 事業概要シート

《当日配布資料》

トピックス		食育の推進	
公会計事業名称		保健予防費	
部名	保健所	課名	保健予防課
目的	まちだ健康づくり推進プラン24-31に基づき、食を通じたまちづくりを目指す。		
事業の対象	市民、関係機関・団体		
根拠法令	食育基本法		
保健予防費の概要	◆食育推進に関すること(保健栄養に関すること) ・市民の皆様が食育を実践しやすい環境を整えるとともに、取り組みを推進しています。		
	◆健康づくりの推進に関すること ・市民が健康の維持・増進に取り組めるように健康づくり推進員を支援しています。		
	◆精神保健に関する専門相談の対応をすること ・こころの健康相談(ひきこもり・依存等)の対応を行っています。		
	◆歯科保健に関すること ・歯科口腔健診の実施、口腔ケアについての普及啓発を行っています。		
	◆難病に関する相談の対応をすること ・難病で療養中の方やそのご家族の方の日常生活に関するご相談対応を行っています。		
	◆母子保健に関すること ・妊婦・乳幼児の健康診査、産後ケア、母子手帳の発行等を行っています。		
	◆医療費助成(感染症・大気汚染等)に関すること		
	◆感染症の予防と対応に関すること		
	◆健康福社会館の管理運営に関すること		
	◆予防接種に関すること		
	◆新型コロナウイルスワクチン接種に関すること		

<保健予防費の取り組みに関する事業費・財源内訳>

単位:千円

		2021年度	2022年度	2023年度
財 源 内 訳	町田市	3,137,692	6,903,797	6,526,395
	国、東京都	6,073,919	5,039,496	2,226,464
	その他	34,009	38,161	34,616
事業費総額		9,245,620	11,981,454	8,787,475

<食育推進事業の取り組みに関する事業費・財源内訳>

単位:千円

		2021年度	2022年度	2023年度
財 源 内 訳	町田市	353	0	763
	国、東京都	312	637	1,000
	その他	0	0	0
事業費総額		665	637	1,763

<2023年度の主な事業費>

- ・計画策定委託料 1,000千円
- ・委員謝礼 605千円
- ・事業協力謝礼 90千円

<食育推進事業の取り組みに関する職員数>

	2021年度	2022年度	2023年度
正規職員(人)	1.55	1.10	1.40
会計年度任用業務職員(人)	0.48	0.50	0.05
会計年度任用補助職員(人)	0	0	0
計	2.03	1.60	1.45

1 食育の推進の目的と現状

(1)「食育」とは

「食育」とは、国が定める食育基本法において、以下のとおり定義されています。

生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けられるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるもの

国の第4次食育推進基本計画では、日本人の健康や食を取り巻く環境の変化、社会のデジタル化などを踏まえ、以下の3点に重点をおいた取り組みを進めています。

- ①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
- ②持続可能な食を支える食育の推進
- ③「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

町田市では、国の第4次食育推進計画や、町田市民の保健医療意識調査結果などから課題を把握し、市民一人ひとりが望ましい栄養摂取・食生活を実践することで、心と体の健康づくりにつなげていくため、食育を推進しています。

(2)市の計画

<第2次町田市食育推進計画(2019年度～2023年度)>

2013年度に「町田市食育推進計画」を策定し、市民が食育に関心を持ち、実践につながるように取り組んできました。

2019年度には、さらに食育を推進していくために、関係機関・団体等が連携・協働して取り組むことを目的に、「第2次町田市食育推進計画」を策定しました。

・計画の理念・目標

『食の「わ」で育むまちだの未来～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～』

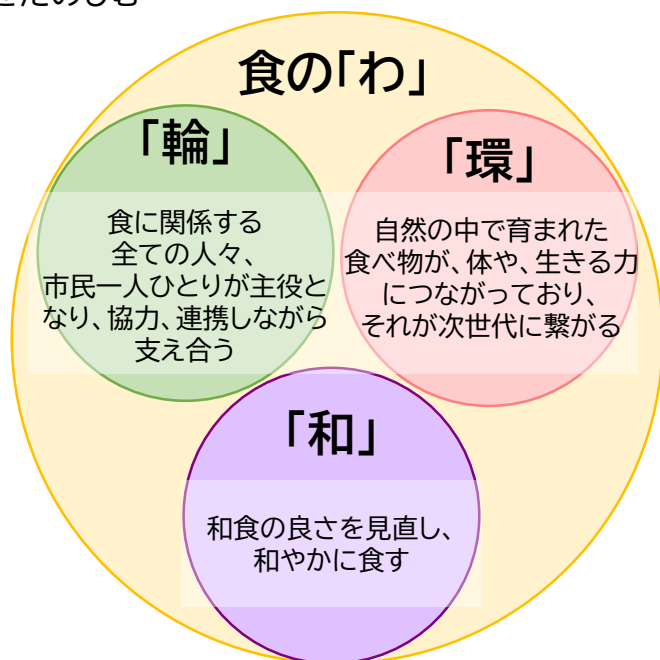
基本目標1:安全で望ましい食生活をおくる

基本目標2:食を通じて家族や地域とつながる

基本目標3:地域の恵みに感謝して食をたのしむ



<第2次食育推進計画>



<食の「わ」の意味のイメージ>

<まちだ健康づくり推進プラン24-31(2024年度～2031年度)>

市民の総合的な健康づくりの推進のため、「まちだ健康づくり推進プラン(第5次保健医療計画)」、「第2次町田市食育推進計画」、「町田市自殺対策計画」の3つの計画を統合し、他分野とも連携して食育の推進を図っています。

・計画の目標・施策

目標:『食で健康を支えるまち』

施策1:望ましい栄養・食生活の推進

施策2:食を通じて地域とつながるための支援

施策3:食に関する環境の整備



<まちだ健康づくり推進プラン24-31 >

(3)食育推進の体制

食育推進事業の進捗確認と、取り組む方向性・改善策を協議するため、「町田市食育推進委員会」及び「町田市食育推進庁内連絡会」を設置し、年2～3回程度会を開催しています。

<食育推進のためのネットワーク>

- ・町田市食育推進委員会:食や食育に関わる機関、団体及び学識経験者による委員会で、専門的な立場から市の施策に意見・助言等を行っています。
- ・町田市食育推進庁内連絡会:食や食育に関わる市役所の各部署(14課)を構成員とする連絡会で、食育推進事業の検討を行っています。

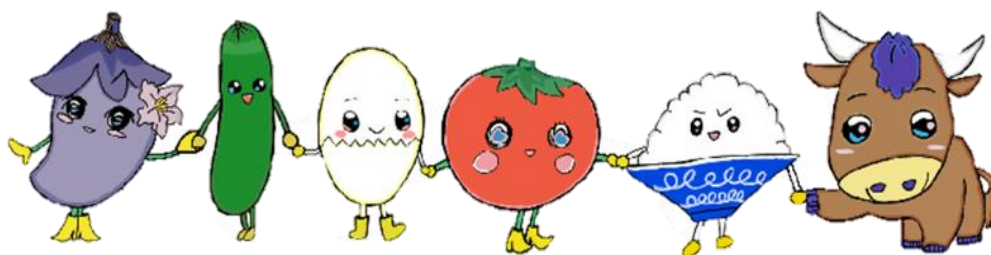
<食育推進キャラクター まち☆ベジーズ>

市民が食育に関心を持つきっかけとなるよう、「まち☆ベジーズ」を活用し、食育推進活動を行っています。

「まち☆ベジーズ」は、市内で収穫される農作物がモチーフのキャラクターで、まちだの食の「わ」を育むシンボルとして、2022年度に大学生と一緒に作成しました。

「まち☆ベジーズ」の愛称は、市民投票で選ばれました。

キャラクターの名前は左から順に、ナス子、キュウ、たまみ、とまていー、めっしー、もおです。



(4)市民の食育に関する現状/データ

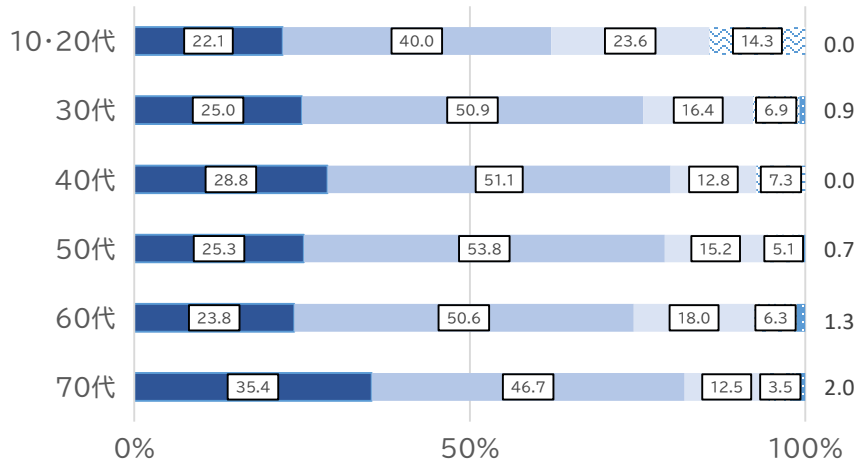
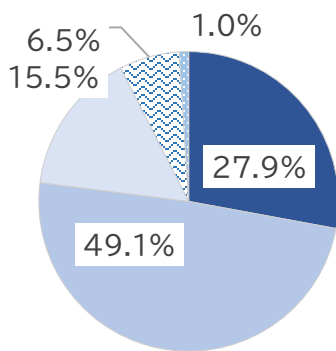
まちだ健康づくり推進プラン24-31の策定に向け18歳から79歳までの成人3,000人に対し、2022年度に市民の健康や医療に対する意識や意見等の調査を実施しました。

<年代別回答割合>

年代	回答数	構成比
10代	23	1.7%
20代	117	8.7%
30代	116	8.6%
40代	219	16.3%
50代	277	20.6%
60代	239	17.8%
70代	345	25.7%
無回答	8	0.6%

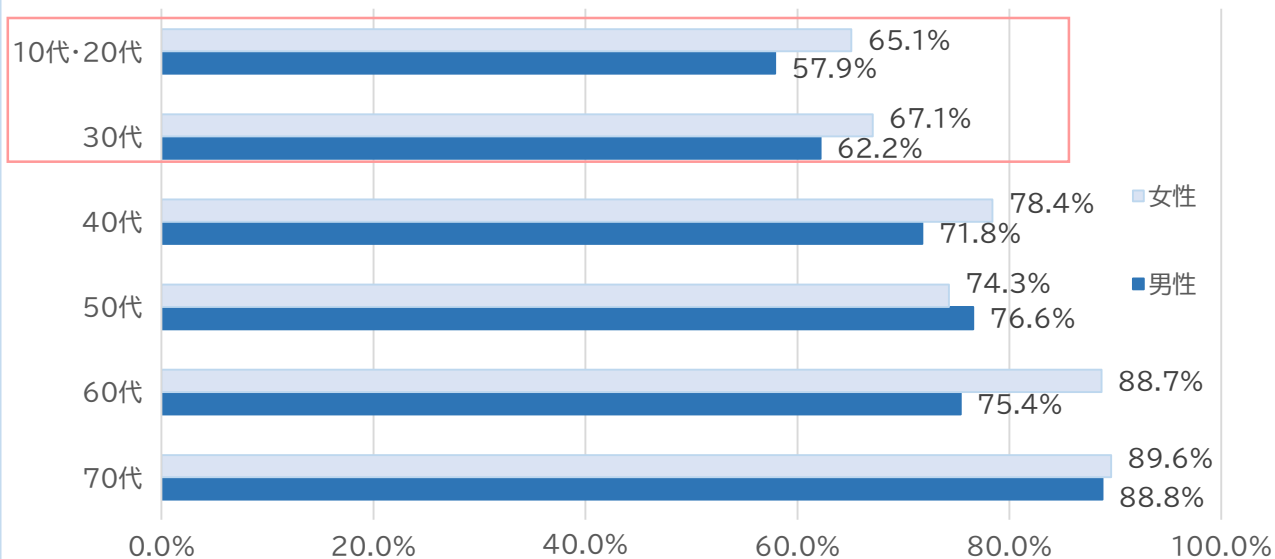
<食育への関心>

「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」をあわせた割合は、77.0%でした。



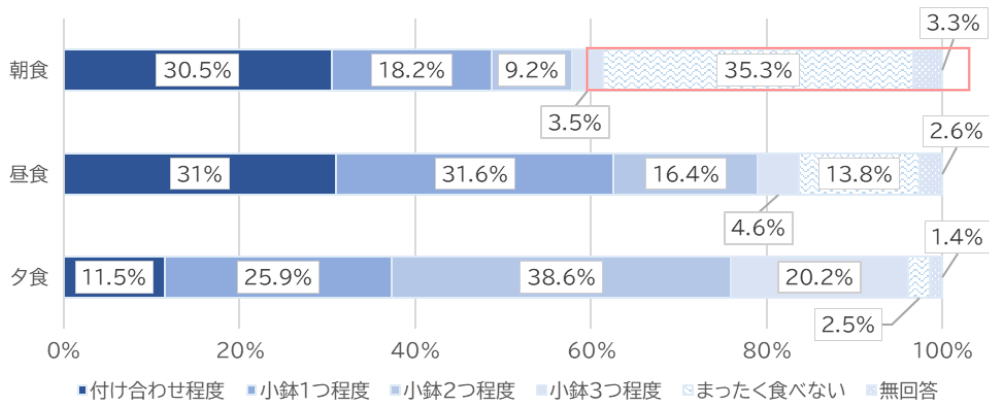
<年代別の朝食の摂取状況>

「ほとんど毎日食べる」の割合が78.0%と最も高くなっています。また、10～30代で「ほとんど毎日食べる」の割合が5～7割と、他の世代に比べると低くなっています。



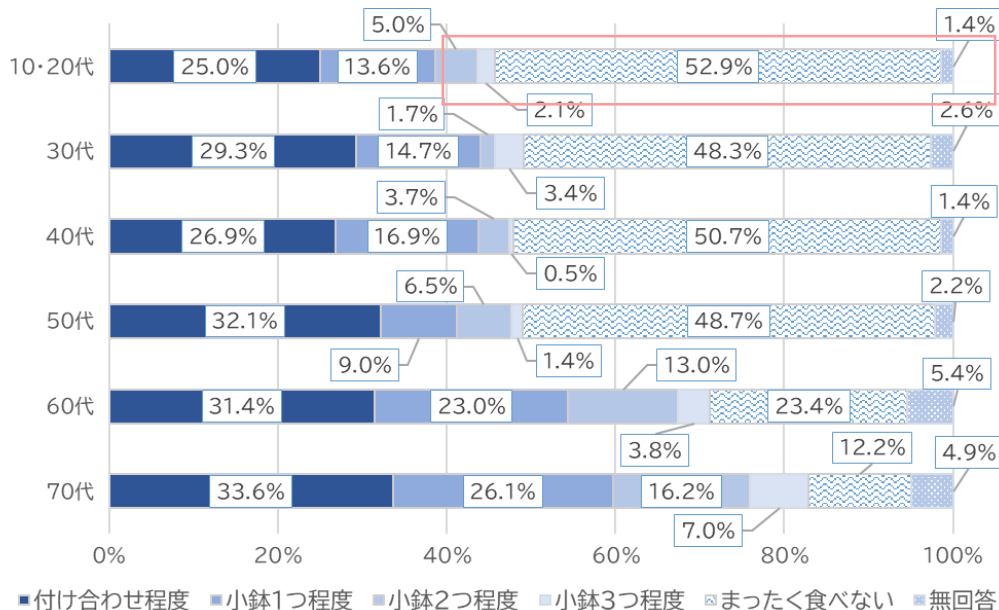
<朝食・昼食・夕食それぞれにおける野菜の摂取状況>

3食の中で野菜料理を「まったく食べない」割合は、朝食で最も高くなっており、野菜料理を最も多くとる食事は、夕食となっています。



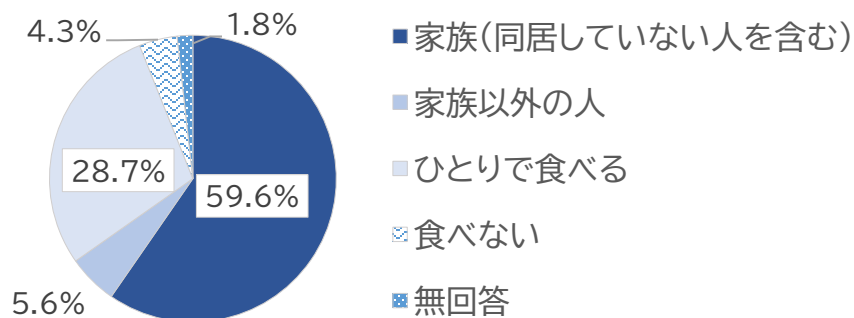
<年代別にみる野菜料理の摂取状況>

朝食における野菜料理の摂取状況について、年齢別では、10・20代で「全く食べない」の割合が最も高くなっています。



<共食の状況>

家族や友人等とともに食卓を囲む「共食」をしている人の割合は、65.2%でした。



食育への関心が高い一方で、共食ができている割合が低く、若い世代ほど、朝食の欠食が多く、野菜料理の朝食における摂取率が低いことが分かりました。

この結果を受け、食育への関心のさらなる向上と、若い世代を中心とした食育推進、野菜の摂取率向上に向けた取り組みを実施しています。

2 望ましい栄養・食生活の推進

市民一人ひとりが、ライフステージに応じた食の知識と選択する力を習得し、望ましい食生活を送ることができるように支援しています。

(1)食育講演会

市民が食育に関する理解を深め、実践につなげることを目的に、食に関する専門家による講演会を開催しています。主なテーマは、望ましい食生活の習慣化や食文化の伝承についてです。

＜野菜摂取量増加のための講演例＞※講師の所属・肩書は開催時のもの

テーマ	講師	参加者数
「お弁当の世界～簡単にできちゃう！バランス弁当のコツと最新お弁当箱の紹介～」	料理家・弁当コンサルタント 野上 優佳子 氏	89名
「冷凍王子直伝！ 『時短』『食品ロス』のためのフリージング術」	冷凍生活アドバイザー 西川 剛史 氏	64名
「簡単おいしい『3STEPレシピ』～手軽に美味しく、 もっと野菜を食べよう！～」	料理研究家 ヤミー 氏	93名



＜料理研究家 ヤミー氏 講演会のようす＞

(2)食育月間・食育の日

6月の「食育月間」や毎月19日の「食育の日」にあわせ、主食・主菜・副菜をそろえて食べる機会や野菜摂取量の増加、減塩を意識した食事につながるように、市庁舎や市内施設等において食育の普及啓発活動を行っています。

＜取組の一例＞

- ・庁用車への食育月間ステッカー添付
- ・中央図書館児童コーナーに食育関連書籍を設置(図書館職員との連携)
- ・懸垂幕の掲示
- ・市民ホールレストラン・健康福祉会館へのぼり旗を設置
- ・SNS・デジタルサイネージによる啓発



＜町田マルイ・モディのデジタルサイネージ、SNSでの発信＞



＜町田市庁舎 懸垂幕の掲示＞

3 食を通じて地域とつながるための支援

家族や友人等とともに食卓を囲む、「共食」のメリットの啓発を進めるほか、町田産農産物を購入する機会や、町田産農産物を使った料理を食べる機会を増やす取り組みを進めています。

(1)町田市食育ボランティアによる食育活動

町田市が実施する養成講座を修了した方を、「町田市食育ボランティア」として登録しています。子どもから大人まで幅広い世代を対象に、共食の推進や食事マナーについて啓発しています。

市が行うイベントや地域等からの活動依頼を受けて、子どもから大人まで楽しめる幅広い食育活動を行っています。

活動の内容の例：食文化(和食)や食事のマナーに関するクイズ・ゲーム
紙芝居の読み聞かせ、調理実習等

・ボランティア登録人数：25名(2024年8月時点)

	2021年度	2022年度	2023年度
活動回数	4回	7回	9回



<保育園での活動のようす>

(2)まちだすいとんの提供

野菜摂取量の増加や、町田産農産物の普及啓発、町田の地域の味の継承を目的として、市内の農家さんが昔から食べていたすいとんを、保健所と地域活動栄養士会の栄養士が「まちだすいとん」として、レシピにしました。

町田市食育ボランティアによる普及や、学校給食等における提供によって、2022年度末には累計提供数が3万食を突破しており、多くの市民に愛されている地域の味です。

<まちだすいとんの特徴>

①季節の町田産野菜を使用します。

ただし、ごぼうは風味が強いため使用しません。

②長ネギの緑色の部分まで無駄なく使い、よく炒めます。

③すいとんは、中力粉(地粉)を使い、よくこねて、薄く引っ張ってちぎった平たい形をしています。

町田市内で栽培されている小麦粉が中力粉のため、中力粉を使用します。



<まちだすいとん>

(3)食に関する体験ツアー

町田市内の食や農業生産者とふれる機会を増やすとともに、生産者から話を聞く機会や、作業を体験する機会を提供することで、食に対する感謝の心を育むことを目的に、親子を対象に実施しています。

<食体験事業一例>

実施年度	テーマ	対象	参加者数
2021	～食体験×スポーツで町田の魅力を発見！ with FC町田ゼルビア～	小～中学生の子どもとその保護者	大人 12人 子ども11人(親子9組 計23名)
2022	秋を楽しむ！町田の野菜まるごと体験ツアー	3歳～中学生の子どもとその保護者	大人 12人 子ども11人(親子9組 計23名)
2023	町田の食を味わおう！～ブルーベリーの収穫体験&まちだランチ～	3歳～中学生の子どもとその保護者	大人 9人 子ども11人(親子9組 計20名)



<with FC町田ゼルビア>



<農場での収穫体験>



<まち☆ベジ弁当> (※1)



<ブルーベリー農園での収穫体験>

(※1)まち☆ベジ

町田市内在住の農業者、又は町田市内に農業経営の拠点がある農業者が、生産記録等の管理の下で生産した農産物を、町田産農産物のブランド化の目的で、「まち☆ベジ」と呼んでいます。



4 食に関する環境の整備

バランスの良い食事や朝食をとる習慣・望ましい栄養・食生活が身につけやすい環境を整えるために、企業と連携した取り組みや、情報発信を行っています。

(1)民間企業や大学との連携

市民の野菜摂取量増加を目的に、民間企業や市内事業者、相模原市に加え、市内の大学も参画し、野菜レシピブックの作成・配布を行いました。

2022年度から2023年度までに4回発行しており、市内では計18,958部配布しています。

	配付数(内:町田市内施設配布数)	配付期間
第1弾	5,808部(2,928部)	2022年 6月 1日～ 6月30日
第2弾	13,000部(3,510部)	2022年11月28日～12月31日
第3弾	13,900部(5,500部)	2023年 6月 1日～ 6月30日
第4弾	19,470部(7,020部)	2023年 6月 1日～ 6月30日



<市ホームページに掲載>



<作成したレシピブック>

(2) SNSや動画を使用した周知

SNSや動画を活用した情報発信を行っています。

市民(特に若い世代)が食に関する情報を知り、望ましい食生活の実践につなげることを目的としています。

- ・SNSでは、簡単に作れるレシピや、町田産農作物「まち☆ベジ」の紹介などを行いました。



<フォロワー数>(2024年3月末現在)

・Instagram:494件

・X(旧Twitter):642件



<SNSに掲載しているレシピ例>

- ・電光掲示板及びデジタルサイネージを活用して、食育に関心がない人にも関心を持ってもらえるよう、広く市民へアプローチを行いました。



<FC町田ゼルビア電光掲示板PR画像の例>



<ASVベスカドーラ町田電光掲示板PR画像の例>



<丸井・モディ デジタル広告 動画>



<神奈川中央交通 デジタル広告 動画>

5 その他の普及啓発活動

(1)広報まちだ、ホームページ

食育に関する周知・啓発をホームページや広報誌等で行っています。

<広報まちだ>

食に関する知識やイベント周知に関する情報を中心に掲載しています。



<ホームページ>

事業の概要や活動の紹介、日々の生活に役立つレシピ集などを掲載しています。

(2)市役所での掲示や企業とのコラボイベント

食育に関するイベント等を行っています。あわせて、その周知をチラシやポスターを用いて行っています。



<市役所 イベントスタジオでの展示>



<市庁舎 コンビニエンスストアとの連携>



<東急リバブルでのイベント及びポスター>



<食育月間図書館コーナーイベント及びポスター>

<食育に関心がある人の割合>

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(%)	-	90.0	-	85.0
現状値(%)	80.8	82.1	77.0	-

<「共食」をする人の割合>

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(%)	-	-	-	75.0
現状値(%)	-	71.4	65.3	-

<朝食を食べる人の割合>

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(%)	-	-	-	85.0
現状値(%)	83.1	85.9	78.0	-

<1日の野菜の摂取量>

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(g)	-	350	350	350
現状値(g)	250	265	233	-

<朝食に野菜を食べる人の割合>

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(%)	-	-	-	70.0
現状値(%)	66.9	68.3	61.4	-

<食育に関するSNSでの閲覧件数> ※2023年3月末現在

Instagram 年間155回発信 「いいね」1,053件

X(旧Twitter)年間155回発信 「共有(リツイート)」232件、「いいね」775件、
「インプレッション」48,464件

議論のポイント①

効果的な周知・啓発方法について

評価人チームが考える問題点①

- ・食育への関心度や課題が、世代や性別などによって異なるため、分析をする必要があるのではないか。
- ・SNSのフォロワーが少なく、内容としてもあまり読みたいと感じるようなものでないと感じた。内容に工夫が必要ではないか。

議論のポイント②

若者・無関心層に向けた効果的な推進方法について

評価人チームが考える問題点②

- ・食事の大切さを訴えかける発信をすると同時に、食事を抜くことや栄養が取れていないことによる悪影響についても発信する必要があるのではないか。
- ・若者や無関心層の行動変容を促すためには、強烈な体験が必要である。そのためには、民間企業や大学等との連携を含め、「食体験」を充実させる必要があるのではないか。
- ・行動変容の前に、意識変容に関する成果指標を設定する必要があるのではないか。

市民参加型事業評価結果について

【事業の概要】

評価対象事業について、高校生を含む市民と有識者で構成する評価人チームが、事業所管課の担当者との対話を通じて、事業の問題や課題等を洗い出し、現状を評価します。その後、評価人チームと町田市で課題の解決策を考え、事業の改善のための取組を示した改善プログラムを作成し、事業の改善を進めます。

実施日：2024年11月10日(日)

評価人チームの構成：コーディネーター1、有識者評価人2、市民評価人1、高校生評価人3、大学生評価人1(計8名)

【論点】

	評価人チームが考える問題点	論点のポイント
①	・食育への関心度や課題が、世代や性別などによって異なるため、分析をする必要があるのではないか。 ・SNS のフォロワーが少なく、内容としてもあまり読みたいと感じるようなものでないと感じた。内容に工夫が必要ではないか。	効果的な周知・啓発方法について
②	・食事の大切さを訴えかける発信をすると同時に、食事を抜くことや栄養が取れていないことによる悪影響についても発信する必要があるのではないか。 ・若者や無関心層の行動変容を促すためには、強烈な体験が必要である。そのためには、民間企業や大学等との連携を含め、「食体験」を充実させる必要があるのではないか。 ・行動変容の前に、意識変容に関する成果指標を設定する必要があるのではないか。	若者・無関心層に向けた効果的な推進方法について

【評価結果】

一部改善すべき

- ・市が実施する事業として、市民の健康を支えるという意味で、大変意義深く、内容としても評価ができる。
- ・実施方法や周知方法はターゲットにより訴求できる方法を検討してほしい。

【議論のポイント1】

効果的な周知・啓発方法について

評価人チームからの主な意見	評価人からの提案例
とてもよい取組をしているのにもかかわらず、市の事業を知らない人が多いように感じるため、食事の大切さや、正しく栄養が取れないことの悪影響を訴求するなど、SNS 等で発信する内容を工夫する必要があるのではないか。	・対象者によって、周知方法や啓発内容を使い分けたほうがよいのではないかな。 ・まち☆ベジーズを活用した四コマ漫画などで、食育に関する普及啓発をすると親しみやすいのではないかな。 ・SNS を活用するうえでは、表紙の工夫や、市民参加型のレシピコンテストを開催するとよいのではないかな。 ・学校と連携した周知を行うとよいのではないかな。

【議論のポイント2】

若者・無関心層に向けた効果的な推進方法について

評価人チームからの主な意見	評価人からの提案例
若者や無関心層の行動変容を促すためには、民間企業や大学等との連携を含め、「食体験」を充実させる必要があるのではないか。	・朝食をとらないのは時間がないことも理由の一つなので、おにぎりのような手軽でバランスの取れたレシピを周知するとよいのではないかな。 ・若者の食育を推進するにあたっては、まちだすいとんを、高校や大学の文化祭や学食で提供したり、地元スーパーに保護者向けのレシピの設置をしたりと、学校や民間企業と連携する必要があるのではないかな。 ・無関心層に対しては、流行りのドラマとのコラボや、「勉強中」「運動後」「眠くなりにくい」等、目的別おすすめ食事内容を発信してはどうか。 ・食に関する取り組みは、市の他部署でも実施していると思うので、他課と連携して実施してほしい。

【今後のスケジュール】

2月4日改善プログラム決定、2025年3月末の公開予定

食育すごろくを活用した食育推進について

【目的】

各課が取り組んでいる食育の内容を盛り込んだすごろくを作成し、市民への普及啓発を他課と連携して行う。さらに、まち★ベジーズサイコロを活用することで、食育への興味関心を高める。

【想定する対象】

・乳幼児(保育園) ・小学生(学童保育クラブ、小学校、子どもセンター) ・家庭

【想定する活用方法】

- ・保育園や学童保育クラブなどの遊びの場での活用
- ・町田市 HP に掲載し、家庭での活用

【想定するテーマ】

- ・対象者別(乳幼児・小学生など)の食育に関する内容
- ・行事食や和食など、分野を限定した内容

※参考資料:「八王子食育すごろく」「農水省食育すごろく」「農水省和食すごろく」

【すごろくマスの内容】

- ・各課で市民に普及啓発したい食育推進に関すること
- ・テーマに沿った啓発内容

【作成サイズ】

A3 判

【活用について食育推進庁内連絡会で出た意見】

・学童や子どもセンターでは、人生ゲームが人気。人生ゲームのようなイメージで、例えば、とまったマスで野菜や食材カードなどがもらえて、最後にそのカードで料理を作れた数で競うなど、最初にゴールした人ではない工夫があると興味を持ってもらえそう。

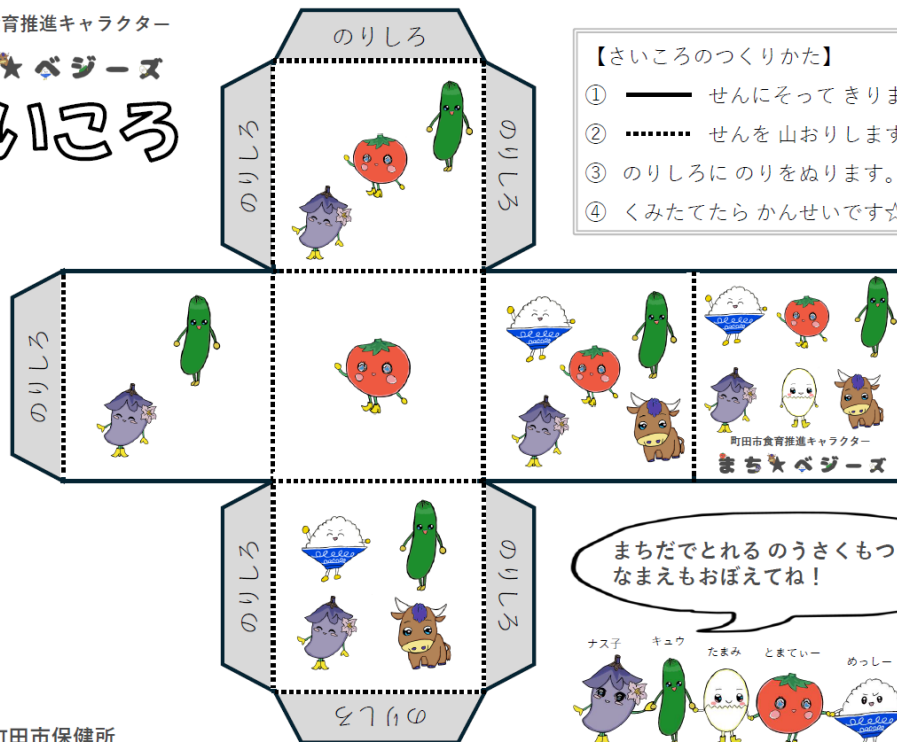
・空欄のマスを作り、そこに置けるカードを様々な内容で用意しておく。自分たちで空欄のマスにカードを置いて、毎回、変えられるとおもしろい。

サイコロ

町田市食育推進キャラクター

まち★ベジーズ

さいころ



町田市保健所

すごろくイメージ図



参考

